

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

発行 医療法人財団 東京勤労者医療会 1部60円

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7

TEL (3404)7661

E-mail address yo_sosiki@tokyo-kinikai.com

友の会会員は会費に購読料がふくまれています。

透析医療の昨日・今日・明日

腎臓病と共に生きて

絵描きになりたかったという工藤松太郎さん(58歳)。透析30年を迎えます。腎友会会長としても活躍している工藤さんに、透析室で話しをお聞きしました。40年目の出発となる腎友会総会の模様と透析医長代田医師の挨拶をあわせて紹介します。

(編集部)

27歳で

透析開始

私の目標は「母に自分の葬式をさせない」ことと工藤さんはいいます。

人工透析開始は27歳のときでした。透析開始翌年の1月に息子さんが誕生し、現在は3人の子供に恵まれ5人家族です。

30年前は「透析患者で子供を育てている人

仕事は

生きる力

「治療で職場での会議に出席できないと、いざと言うときに頼りにならないとレッテルを貼られます」「仕事を100%やりたくても体が続かなかった時はとてもつらかったとい

「好きな仕事をするには、大変な時でも工藤さんは「好きな仕事をするには、大変な時でも工藤さん



透析中の工藤松太郎さん

ていられたのがよかったです」といいます。

料理は丈夫な

体づくり

「自分の体力の底(限界)がここなんだ」と初めて知りました。

「体力をつけることが風邪をひきにくい体をつくることだと思っています」

合併症、病気についても必ず自分で調べました。体調をくずさないために食事の見直しをし、食べすぎ、寝不足にも注意をはらい、血液を汚してしまう動物性タンパク質を摂らないように心がけました。透析日は自分でつくったお弁当(玄米入り)2つ持ってくるそうです。

透析室・臨床工技士の田中隆行さんに腎友会総会の報告を寄せてもらいました。

1月31日

腎友会の総会を終えて

気持ち新たに

病院で第39回腎友会の総会が代々木病院、中野共立病院、桃井診療所3院所合同で開催され、患者さん27名、スタッフ18名、合



じっくり聞いて発言しよう

いる患者さんも少し羽目を外せる日です。楽しみに一つである今日のおべんとうは、色とりどりの具材を使い、上品な薄味の料理にみんな満足顔でした。ス

「復期病棟では不可能であった透析患者様の脳血管障害・整形外科的障害の後遺症のリハビリが可能となりました。今年も、日本慢性腎臓病対策協議会(J-C



代田和博医師

透析医長を拝命して以降、透析患者様の人権を守ることを目標に、日本の透析医療を牽引してきた代々木病院腎友会の歴史の重みを痛感する日々です。

多くの透析患者様のリハビリが出来る病院は、都心部では代々木病院だけです。医療制

手術台

寺島実郎氏によると、メディアを含め日本のインターネットには「奴顔」

という(「世界2月号」)。奴顔とは「虐げられるのに慣れ、強いものに媚びて生きようとする人間の表情」のことである。▼普天間を初めとする日本の基地移転問題について、氏は「常識で現実を直視せよ!」という。戦後65年目なのに4万人の米兵と23区の1・6倍の基地がある▼米国の海外大基地上位5つのうち4つが日本にある。地位協定により国会の承認なしでもどこも基地として使える。米軍駐留費の7割を日本が負担している。この世界に例の無い異常事態を当たり前の事と受忍し「論評する」のは奴根性であろう▼かつて私達は「沖繩を返せ!」と激しくたたかった。沖繩からの留学生たちは涙を流して喜んでくれた。本土並みで核抜き「返還の甘いスローガン」で戦いを止めてしまった私達の責任は大きい。実質的には沖繩はまだ還ってきていない。復帰しない方が良かったと言われぬ為の行動を起こすのは「今」である(ま)